

【水の里の旅コンテスト2018 応募企画】

【一般部門】

ひろうら田舎暮らし体験推進協議会×茨城町

『茨城町ふれあい民泊体験 豊かな自然に恵まれた魅力いっぱいのまち』

(観光地域：茨城県 東茨城郡茨城町)

【日程】	1泊2日		
【実施時期】	通年		
【催行人員】	最大70名(最少催行人員：要相談)	【お勧めする旅行者層】	小学生～大学生(国内外問わず)
【旅行代金】	※30名 中学生以上の場合 14,500円 (1人)	【内 訳】	
		【行程表記載のモデルコースの場合】 イカダ乗り体験：1,500円／伝統漁法体験：2,500円／シジミ漁見学：1,500円／花巻き寿司体験：2,000円／宿泊：7,000円(中学生以上) ※すべて税込み	
【企画趣旨(伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
<p>今年で4年目を迎える農家民泊。 地元の有志により設立した茨城町の「ひろうら田舎暮らし体験推進協議会」が中心になり、 学生の田舎暮らし体験、農漁業体験の受け入れを行っています。 都市部と農村部の交流及び、地域の住民の交流と活性化を目的とし、 地域の資源である湖「涸沼(ひぬま)」の恵みを活かした幅広いプログラムをそろえています。</p> <p>昭和30年ごろ、水浴びや釣りに訪れる人などで活気のあった涸沼の畔の広浦地区。 今では少子化で地区の小学校は廃校。子供たちは独立し年配の夫婦だけになった家庭が増えたほか 東日本大震災後は地元の民宿などの廃業が相次ぎ、以前の活気がなくなってしまいました。 そんな状況を重く受け止め「活気をなくしたこの地域をもう一度にぎやかに」という思いのもと、農家民泊は始まりました。</p> <p>●涸沼の自然の豊かさ 淡水と海水が流れ込む関東唯一の汽水湖で、流域には多種多様な動植物が生息しています。 冬にはスズガモやオオワシの姿を見ることもできる水鳥の宝庫で、2015年には「ラムサール条約湿地」として登録されました。 ラムサール条約とは、水鳥が多く利用する湿地を保護するための国際条約で、 多種多様な生物の住む湿地を保全し、湿地※のめぐみを賢明に利用することを目的にしています。 (※本条約の湿地には「湖」も含まれます。) また、未来に残したい日本の自然100選にも選ばれている涸沼は、人々の暮らしと手つかずの自然が共存。 全国でも有名なヤマトシジミの産地でもあり、ハゼやシラウオ、スズキ、ニホンウナギなどが生息しています。 涸沼の畔から望む朝日や夕日は格別の美しさです。</p> <p>●自然を活かしたアクティビティ 涸沼でしか味わうことのできないすばらしい自然を感じてもらえたら、とさまざまなプログラムをご用意しています。 「さし網漁」や機械を使わない「シジミ漁」、「笹・竹筒漁」、「長袋・つくし漁」など、 伝統文化を活かした漁業体験や見学などのほか、水辺でのレジャーなど自然の中で貴重な体験ができ、 涸沼の自然の豊かさを体感いただけます。</p> <p>●各家庭での心の込もったあたたかいおもてなし 孫を迎えるような気持ちで、農家・漁家のおじいさんやおばあさんが都会の学生や外国の学生を自宅に受け入れています。 地元の農産物等を利用して学生たちと一緒にご飯をつくり、食事を共にし、それぞれコミュニケーションを図ります。 言葉の通じない外国の学生たちを受け入れる際も日本の学生と同様にあたたかく迎えています。</p> <p>●地元住民同士の新たなコミュニケーションの創出 学生と受け入れ家庭とが廃校になった小学校にみんなで集まり、受け入れ・お別れセレモニーを行っています。 学生と共に漁業体験でとれた魚をさばいて調理をしたり、伝統料理の花巻き寿司をつくったりするなど、 みんなで一緒に作業をすることで、地域の住民同士の交流も増え絆が深まるなど地域の活性化にもつながっています。</p>			
【安全確保のための配慮】	【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ひろうら田舎暮らし体験推進協議会事務局を中心に消防署、警察のほか、搬送する病院など緊急連絡体制を整備しています。 ・民泊実施期間中は24時間体制で担当者が対応します。 ・受け入れ家庭を対象に安全衛生講習会等を実施したうえで、受け入れ1週間前に事前説明会を行い、安全対策に関する確認を行っています。 ・緊急対応フローをパンフレットに掲載しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城町の涸沼でしか味わえない貴重な体験を十分に楽しんでいただけるよう地域に精通したメンバーがサポートしています。 ・受け入れ家庭のおじいさんとおばあさんの笑顔あふれる心の込もったおもてなしを感じていただくことができます。 ・一般家庭に泊まっていただくことで、アットホームで飾らない田舎暮らしを体感いただきながら、心がふれあう時間も楽しんでいただけます。 		

【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
① ひろうら田舎暮らし体験推進協議会	事務局	③ あんばまつり保存会	協力
② 茨城町	協力		
【特記事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源である涸沼を活かした多彩なプログラムの提供が可能です。船を使った漁業体験や見学（さし網漁、シジミ漁、笹・竹筒漁、長袋・つくし漁）のほか郷土料理の花巻き寿司や保存食づくり、お囃子・和太鼓体験、農業体験など。 ・日本だけでなく台湾、中国、タイ、ベトナム、アメリカなど海外の学生の受け入れも積極的に行っています。 ・詳細は茨城町ふれあい民泊体験ホームページ (http://hiroura.jp/) をご覧ください。 		
【催行実績】	有		

【行程表】	
1日目	<p>【14:00】受け入れセレモニー：茨城町へ到着後、旧広浦小学校体育館でオリエンテーション。</p> <p>【14:30】【民泊体験ポイント1】 イカダ乗り体験：手づくりのイカダに乗りみんなで力を合わせイカダを漕ぎます。</p> <p>【15:30】【民泊体験ポイント2】 伝統漁法体験：伝統的な漁具を涸沼にしかけたり、さし網漁の見学などを行います。</p> <p>【16:30】各受け入れ家庭の出迎え：宿泊するそれぞれの家に向かいます。</p> <p>【19:00】夕食づくり～食事：地元の食材を使って各受け入れ家庭と一緒に夕食をつくり食事をします。</p> <p>【22:00】就寝</p>
2日目	<p>【06:00】起床～朝食づくり</p> <p>【09:00】【民泊体験ポイント3】 伝統漁法体験：前日にしかけた漁具を引き上げたり、船に乗りながら漁の見学を行います。</p> <p>【09:30】シジミ漁見学、釣り：昔ながらのシジミ漁の見学や釣りなどを体験。</p> <p>【11:30】【民泊体験ポイント4】 昼食づくり～食事：漁でとれた魚を調理するほか、郷土料理の花巻き寿司づくりなどを体験。</p> <p>【13:00】【民泊体験ポイント7】 お別れセレモニー：学生と受け入れ家庭の全員で旧広浦小学校体育館に集まり、一緒につくった昼食を食べながら、最後のふれあいの時間。記念写真を撮影し、お別れの時間を迎えます。</p>

【主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など）】		
【観光ポイント1】	【観光ポイント2】	【観光ポイント3】
 	 	 
<p>【汽水湖 涸沼（ひぬま）】 茨城町を含む3市町の境にある「涸沼」。海までの距離は約10km、満潮時には川が逆流し海水が流れ込むため、淡水と海水が交わる汽水湖です。日本の汽水湖は浜名湖や宍道湖が有名ですが、関東地方の汽水湖は涸沼しかありません。古くから景勝地としても知られ、湖畔から眺める朝日や夕日は格別で、季節や時間によりさまざまな表情の涸沼を見ることができます。夕暮れ時は幻想的な雰囲気に包まれます。また、涸沼からは筑波山を望むことができ、3月と10月には筑波山頂へ夕日が沈む「ダイヤモンド筑波」を見ることができます。</p>	<p>【ラムサール条約登録湿地】 年間を通じたくさんの水鳥がやってくる涸沼。2015年にラムサール条約湿地として登録されました。ラムサール条約とは水鳥が多く利用する湿地を保護するための国際条約で、多種多様な生物の住む湿地を保全し、湿地※のめぐみを賢明に利用することを目的としています。 ※本条約の湿地には「湖」も含まれます。 鳥類は88種類以上が確認されており、冬季にはマガモ、スズガモなどカモ類が1万羽以上飛来します。毎年1～3月頃やってくる絶滅危惧Ⅱ類のオオワシは翼を広げると約2mにもなります。涸沼では希少な鳥たちの姿も楽しめます。</p>	<p>【多様な生物を支える豊富な自然資源】 涸沼には多様な生物が生息しています。この生物たちを支えてきたのは豊富な栄養を含む汽水域であることのほか、ヨシやマコモ・ウキクサなど沿岸に発達した植物の集団である植生帯です。これらは魚や昆虫の産卵場所となり、稚魚や幼虫などの生育場所として重要な働きをしています。広大なヨシ原はオオセッカやヨシキリなど鳥類の繁殖場所にもなっています。1971年に涸沼で初めて発見された体長3cmほどのヒヌマイトトンボは、茨城町指定の天然記念物です。</p>

【観光ポイント 4】	【観光ポイント 5】	【観光ポイント 6】
		
		
<p>【機械を使わない昔ながらのシジミ漁】 大粒で肉厚な涸沼のヤマトシジミは、機械を使わない昔ながらの漁法「手掻き」により丁寧に採取しています。 湖上に浮かぶ小さな木舟にかご付きの竿を持った漁師の姿は風情があります。 乱獲を防ぐために漁ができる人数や時間を制限するなど、涸沼の大切な水産資源の保護に努めています。</p>	<p>【涸沼の大きなヤマトシジミ】 涸沼は宍道湖や十三湖とならぶ日本三大シジミ産地の一つ。 涸沼のヤマトシジミは大粒なのが特徴。大量の海水が流れ込む汽水湖のため養分が豊富で、500円玉くらいの大きなサイズになるものもあります。涸沼のヤマトシジミでつくる「シジミ汁」は、絶品。ぜひ味わっていただきたい一品です。</p>	<p>【あんばまつり】 地域に約 180 年続く「あんばまつり」は毎年 7 月の終わりに開催されます。涸沼の湖上に山車が浮かぶめずらしいお祭りで、月明りのもと、幻想的な雰囲気を楽しむことができます。 お祭りは 1 年に一度しかないので、民泊体験プログラムでは、模擬的にお祭り体験ができるようにし、お囃子や踊り、和太鼓体験のほか、浴衣の着付けなども行っています。</p>
【観光ポイント 7】	【観光ポイント 8】	【民泊体験ポイント 1】
		
		
<p>【涸沼自然公園】 涸沼の湖畔には、涸沼を一望できる公園があります。自然の地形をそのまま活かした広大な敷地にはキャンプ場や溪流が流れる広場、あじさいの谷などがあり、自然を身近に楽しめる環境です。 6～7月ごろは1万株以上のあじさいが咲き誇り、360度、斜面一面があじさいに彩られます。涸沼からの涼しい風を受けるため、あじさいの満開の時期はほかの地域よりも遅くなります。</p>	<p>【水戸八景 名勝 広浦の秋月】 1833年、第9代水戸藩主徳川斉昭が湖面に映る中秋の名月を、「広浦の秋月」として水戸八景の一つに選びました。湖岸には当時建てられた広浦秋月の碑が残っています。 1934年には県の名勝に指定されました。美しい景色に魅せられた多くのカメラマンが訪れる場所にもなっています。</p>	<p>【手づくりのイカダ乗り体験】 地元の人たちが制作した「手づくりのイカダ」に乗って涸沼の水上散歩。救命胴衣を装着し、ひとりひとりオールを手に湖畔の神社を目指し漕いでいきます。 湖上の爽やかな風を受け、景色を眺めながらのアクティビティは、みんなで協力する一体感と達成感も得られる人気の体験です。 現役の漁師が船頭をするので、初めてでも安心して体験することができます。</p>

【民泊体験ポイント2】



【漁業体験：多様な水生生物を間近で観察】
前日に涸沼にしかけた「さし網」を漁師が引き揚げます。どんな魚がとれるかは当日のお楽しみ。とれた魚は、網から外してさばいて調理をすることも可能。とれたての魚を刺身で味わったり、天ぷらやあら汁などをつくって、食べることもできます。
スズキやコハダ、ニホンウナギ、シラウオ、カニなど多様な水生生物を間近で観察することができます。

【民泊体験ポイント3】



【漁業体験：伝統的な漁業見学・体験】
冬から春にかけての涸沼の旬の味覚「シラウオ」の漁体験。体長5~10cmほどの乳白色で透明なシラウオをみんなで一緒に網から外す作業などを体験できます。
このほかにもシジミ漁、長袋漁、つくし漁、笹漁、竹筒漁などの伝統的な漁業見学・体験が可能です。
※禁漁期間等により、季節や日時が限定されているものがあります。

【民泊体験ポイント4】



【地元の郷土料理 花巻き寿司体験】
昔はお祝い事があるとつくられたお寿司で、切った断面にかわいらしい花の絵柄が表れます。地元のおばあさんたちの指導を受けながら、みんなで花巻き寿司をつくります。
最後に包丁を入れるまでどんな絵柄ができていたのかわかりません。切り終えて断面を見た瞬間、学生たちの笑顔があふれます。

【民泊体験ポイント5】



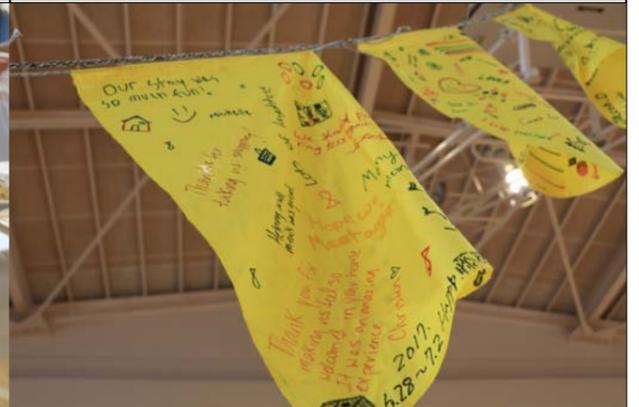
【学校交流で異文化体験】
外国の学生と日本の学生との学校交流プログラムもあります。外国の学生に対し、習字や折り紙、剣道や柔道など日本の文化を見学・体験してもらうなど、同世代とのコミュニケーションを通じ、お互いが成長できるようなプログラムです。
学生同士なので打ち解けるのも早く、最後はお互いの連絡先の交換をするなど、別れを惜しむ姿も見られます。

【民泊体験ポイント6】



【アットホームな雰囲気みんな笑顔に】
涸沼をめぐるアクティビティや農業体験、食事づくりなど、共同作業を重ねることで、受け入れ家庭のおじいさんやおばあさんと学生との距離が近づいていきます。
慣れない環境で最初は緊張していた学生たちも次第に打ち解け、たくさんの笑顔を見せてくれるようになります。

【民泊体験ポイント7】



【廃校でのお別れセレモニー】
廃校となった旧広浦小学校体育館にて、受け入れ家庭と学生全員が集まり、お別れセレモニーを行います。学生たちが書いたメッセージを体育館に掲げ、みんなで記念写真を撮影し、すべての行程を終えます。
外国の学生は言葉が通じないこともあり、お世話になった感謝の気持ちを一生懸命伝えようとハグをして涙を流す姿も…。心を動かされる光景です。